

“もしも”のときの医療、あなたはどうか考える？

実際の医療現場では、どこまでの処置を行うかの判断が難しいケースがあります。あなたならどうしてほしいか、考えてみましょう。

1. 心肺停止になったとき

人工呼吸

気管挿管

口や鼻から、気管にチューブを挿し込んで人工呼吸器につなぎ、肺に酸素を送ります。



麻酔で眠らせて処置するので、苦痛は感じません。

気管切開

人工呼吸器が必要な状態が長く続く場合は、のどの皮膚を切開して気管に穴を作り、チューブをつなぎます。



NPPV

気管挿管や気管切開を行わず、マスクを顔面に固定して行う人工呼吸です。



心臓マッサージ (胸骨圧迫)

心臓の上を圧迫して、血液を脳や体全体に送ります。

高齢者の場合、骨が折れるなど、かえって体に大きなダメージを与えてしまうこともあります。



除細動

心臓が^{けいれん}痙攣し、細かく震えている状態のときは、電気ショックを与えることにより、心臓の動きが正常に戻ることがあります。

いま、あなたが心肺停止になったとしたら、これらの処置を希望しますか？
(処置をすれば、元の生活に戻れる可能性が高い場合を除きます。)

- 命が助かる可能性がほとんどなくても、できる限りのことをやってほしい。
- 元の生活に戻れる可能性が少しでもあるならば、できる限りのことをやってほしい。
- 元の生活に戻れる可能性が低いのであれば、やるかどうかを慎重に判断してほしい。
- 元の生活に戻れる可能性が低いのであれば、やってほしくない。

2. 口から食べられなくなったとき

経鼻栄養

鼻から胃までチューブを通して、栄養剤を送ります。

起きている状態でも処置できます。鼻にチューブが入ったままになるので、不快に感じる場合があります。



胃ろう

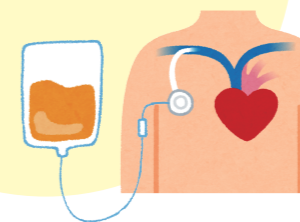
おなかに小さな穴をあけてチューブをつなぐ道を作り、胃に直接、栄養剤や流動食を送ります。



内視鏡による手術が必要です。

中心静脈栄養

心臓に近い太い静脈に、点滴のチューブを挿して栄養剤を送ります。



胃ろうには、口のリハビリ(食べたり話したりする訓練)を行いやすいという長所があります。

口から食べられるようになれば、胃ろうを閉じることもできます。



いま、あなたが口から食べられなくなったら、これらの処置を希望しますか？
(治療のための一時的な処置として行う場合を除きます。)

- 生き続けるために必要であれば、やってほしい。
- 将来、再び口から食べられるようになる可能性が残っているのであれば、やってほしい。
- たとえ栄養状態が悪くなって死が早まるとしても、絶対にやってほしくない。